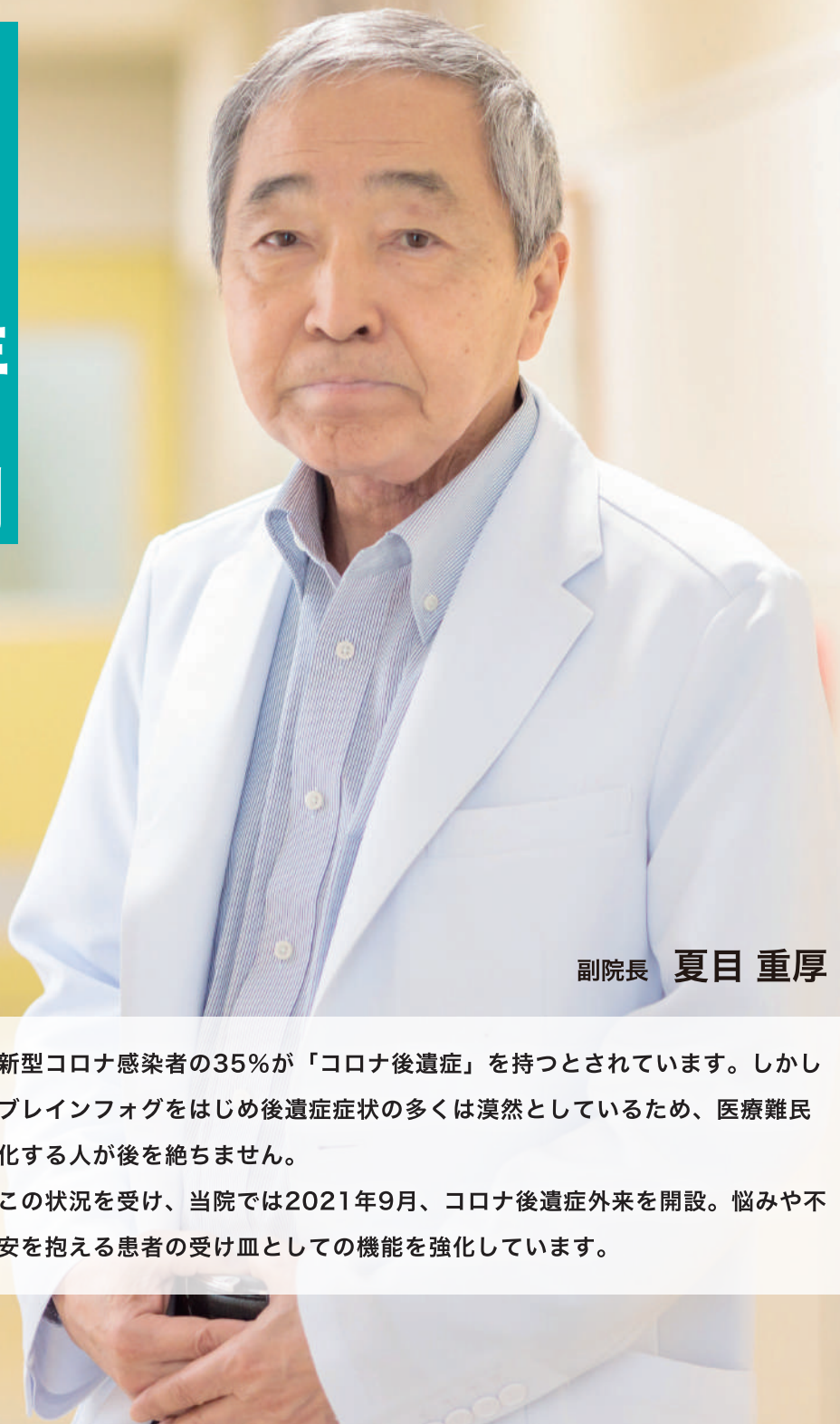


2021年9月

「コロナ後遺症外来」を新設

地域全体で患者を受け入れる

仕組みづくりを目指す



副院長 夏目 重厚

新型コロナウイルス感染者の35%が「コロナ後遺症」を持つとされています。しかしブレインフォグをはじめ後遺症症状の多くは漠然としているため、医療難化する人が後を絶ちません。

この状況を受け、当院では2021年9月、コロナ後遺症外来を開設。悩みや不安を抱える患者の受け皿としての機能を強化しています。

新型コロナウイルス感染後の不調が
放置される現状に直面し、
コロナ後遺症外来を開設

2021年3月頃、日本神経学会で初めて、新型コロナウイルス感染後の後遺症として「ブレインフォグ」が見られることが報告されました。ブレインフォグは霧がかかったように頭がぼんやりする症状のことで、あちこちで報道されたのを機に一般の人にも後遺症の存在が認知されるようになりました。

しかし、このような症状に悩んでいるも、適切な医療の機会がない人が実によく存在します。特に顕著なのが中等症以下の人です。入院したが軽傷で済んだ人や、自宅やホテルでの療養を強いられた人たちの多くは、検査も診療も受けられず、不安を抱えたまま自宅に戻っています。頭がぼんやりして集中力も続かない状態が続いているのに医療機関に電話をしても断られるのは大きな問題です。

中には、医療機関で診てもらえないために「診断書がないから仕事を休めない」という人も見られます。世界的な統計によればコロナ後遺症は35%の感染者に残るとされ、頻度が高いにも関わらずこのような状況が生じているわけです。



そこで当院では、2021年9月から本格的に外来診療を始める体制を整えました。最初の1カ月は、遠方の患者さんも含め約30人が受診されました。多くは働き盛りの40〜50代ですが、20〜30代と若い人もいます。発症日から3ヶ月以上経過されている方で、上記のような症状がある方は一度お電話でご相談下さい。

脳卒中診療で確立してきた検査体制を活用し、スムーズな外来運営を可能に

高次脳機能検査、記憶に関する検査など、数種類の検査を行っています。どの検査も時間がかかるので他院では難しいこともあると思いますが、脳神経疾患を専門とする当院ではこれらの検査に対応できる療法士が多く育っています。

脳卒中患者の6〜7割がうつ病を併せ持つため入院するすべての脳卒中患者にうつ病の検査を行うシステムが確立しており、既存の体制をそのまま活用することができるとのことです。うつ病に対する新しい検査体制をわざわざ作る必要がないため、運営は非常にスムーズです。ただ、この外来を新設するにあたり、嗅覚の検査キットだけは新たに導入しました。

インタビュー全文をWEBページにて公開しています。

<https://www.yoshida-hp.or.jp/column/interview/index05.html>

TOPICS

- ・うつ病や嗅覚障害など、多彩な症状を一つひとつ地道に拾い上げる診療が重要
- ・治療の第一ステップは、丁寧な説明によって不安を取り除くこと
- ・地域全体でコロナ後遺症を診療する「受け皿」を増やすことが重要



吉田病院メールマガジン <https://www.yoshida-hp.or.jp/tiiki/newsletter.html>

日々の診療にお役立て頂ける脳疾患に関する専門的な情報や当院の取り組みにをメルマガにて配信しています。

※配信停止などはいつでも行って頂けます。

メルマガ登録はこちら



社会医療法人榮昌会
吉田病院 附属脳血管研究所

〒652-0803 兵庫県神戸市兵庫区大開通9丁目2-6
TEL:078-576-2773 FAX:078-577-2792
<http://www.yoshida-hp.or.jp/>

患者さんのご紹介や当院へのご意見などは地域医療連携室にお気軽にご連絡ください。

TEL:078-576-1520 (平日 9:00~16:30 土曜 9:00~12:00 ※祝祭日は除く)